

27年度陽南小学校「うつのみや学校マネジメントシステム」学校評価書

※網掛けのない部分が計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童生徒像含む）

心身ともに健康で創造性に富み、心豊かで実践力のある児童を育成する。

【具体目標】

【目指す児童像】

- (1) 自ら学び、ねばり強く努力する児童-----楽しく学ぶ子【かしこく】（自主・思考・判断・創造）
- (2) 思いやりをもち、助け合う児童-----仲よく助け合う子【なかよく】（思いやり・責任・協調・協力）
- (3) 健康と安全に留意し、元気に活動する児童-----元気に活動する子【たくましく】（明朗・気力・体力）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育の目標は、「人間尊重の教育」を基盤として、21世紀の担い手として主体的に生きることができ、心身ともに健康でたくましい人間の育成を目指している。そのためには、自然や人を愛し自他を慈しむことのできる豊かな感性や強い体力・精神力を培ったり、自ら考え進んで学んでいこうとする意欲に満ちた態度を身に付けさせたりする等、知・徳・体の調和のとれた人間の育成を図ることが大切である。

さらには、一人の人間として、自分の生き方についての考えをもち、よりよい生き方を求め、自分らしく生きていくとともに、社会の一員としての自覚と責任をもち、広い視野に立って、積極的に他と協調し連携を図りながら、よりよい社会を築いていくために努力する能力や態度を身に付けさせていくことが学校教育に求められる。

これらのことを踏まえ、創立67年の陽南小学校のよき伝統と校風を引き継ぎ、すべての教職員の力を結集するとともに学校内外の物的・人的資源を最大限に生かし、児童一人一人の確かな成長を図る学校づくりを進める。その理念と目指す学校像を次のように設定し、教育活動の充実につなげる。

【理念】

- ・安心と楽しさのある学校づくり
- ・ともに伸びる学校づくり
- ・家庭や地域から愛される学校づくり

【目指す学校像】

- ・確かな学力を育む学校
- ・豊かな心を育む学校
- ・健康な身体を育み安全な学校

3 学校経営の方針（中期的視点）

全職員が信頼と和を基盤とした協働体制のもと、教育目標や学校のあるべき姿の具現化を目指し、次の5つの方針をもとに学校経営にあたる。

- (1) すべての児童の人権を大切にし、児童が教育活動の中で自分のよさや個性を発揮し自己肯定感や自己有用感を感じることができ学校づくりに努める。
- (2) 小中9年間を見通した確かな学力の向上を目指し、基礎・基本の確実な定着と「楽しく・わかる・できる」授業づくりに努める。
- (3) 自他の生命を尊重し、児童一人一人が生き生きと安心して学校生活を送る中で、児童が自ら健康や体力等の増進に取り組む学校づくりに努める。
- (4) 学校課題研修や教師の自己研鑽に基づいた校内研修を充実させ、教職員個々の指導力及び資質の向上を図るとともに、一人一人の能力や特性を生かしながら、児童とともに伸びる学校づくりに努める。
- (5) 学校・家庭・地域社会が一体となり教育活動の充実を図るとともに、積極的に情報を発信する開かれた学校づくりに努める。

陽南地域学校園教育ビジョン

地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育

～子どもの自主的な活動を通して～

4 今年度の重点目標（短期的視点）

（学校運営）

- ・学校経営のビジョンを教職員で共通理解し、協働して取り組む体制づくりを進める。
- ・学校と家庭・地域の双方向的な関係を築き、学校内外の教育的資源の有効活用を図る。

（児童生徒指導）

- ・基本的生活習慣を身に付け、時と場に応じて適切に判断し、自主的に行動できる児童を育成する。

（健康・体力）

- ・自ら進んで心と体の健康づくりに取り組む児童の育成を図る。
～自分の力に合ったためあてをもち、主体的に運動する児童・自分の体に関心をもち、自ら健康で安全な生活ができる児童をめざして～

（学習指導）

- ・「だれもが『楽しく・わかる・できる』授業の創造～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた国語科授業づくり～」の研究に協働して取り組む。
- 基本的な学習習慣の定着と個に応じた指導の充実を図る。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す）

（「主な具体的な取組の方向性」には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入）

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。〔全〕 【数値指標】 「自分は、今の学校が好きである」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 「学校全体に活気があり明るくいいきとした雰囲気である」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童一人一人が所属感と安定感をもった居がいのある学級作りに向けて、Q-U検査やアンケート・日常の交友関係の観察により、児童の実態を把握し、問題があるときはすぐに対策を講じる。学年間の連携も図る。 ② いじめの早期発見のため、「学校をよりよくするアンケート」を6月・10月・2月に実施し、実態を把握することで、児童が明るい気持ちで生活できるようにしていく。 ③ いじめ・不登校の早期発見・早期対応・解決に向けて、児童指導委員会学年会・ブロック会で情報交換し、教育相談を6～7月と12月に実施する。また、学校の取組だけで改善することが困難な家庭環境が背景にあると思われる不登校については、関係機関（市教育センター・民生員・主任児童委員・児童相談所・市役所子ども課）と連携をするとともに、各担当からも働きかけを行うようにして、改善を図る。 ④ 日常の指導で問題が起きたときは、児童指導主任・安全主任・学年主任等と連携を図って直ちに対策を話し合い、対応策を学年に持ち帰って各クラスで指導をするなどし、素早い対応に努める。また、職員会議の折に児童指導委員会を開き、各学年の児童の様子を伝えるようにしていく。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.9% 保護者の肯定的回答 94.4% ・日常生活の指導の中で各種のアンケートの実施や問題発生時に早期対応を図ることにより、児童が安心して居がいをもって学校生活を送れたため、児童・保護者ともに肯定的回答率が、指標を10%以上、上回った。 【次年度への方針】 ・今年度に引き続き、児童の普段の様子に目を配り、ささいな変化も見逃さない姿勢を教師が保つと共に、問題発生時には、学校全体で連携を図り、早期発見・早期支援に努める。

A2 教職員は、組織の一員として誠実で熱心に教育に当たっている。〔全〕 【数値指標】 「先生方は大切なことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 「教職員は、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 学校教育目標具現化に向けた学校経営のもと、一人一人を大切にし、児童のよさを認め伸ばす学級経営に努める。 ② 児童の理解度をもとに、具体物の操作や教材教具の工夫や算数の習熟度別学習を取り入れることにより、「分かる授業」を展開し、基礎・基本の確実な定着を図る。 ③ 今年度も、教師自身の授業力向上に向けて、一人一授業を実践し、常に学び合う場を設定する。 ④ 授業参観後の懇談会で、学校で指導していること、家庭で指導することを伝え理解・協力を得る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 96.6% 保護者の肯定的回答 90.3% ・児童の理解に合わせて習熟度別学習を取り入れたり、研修を重ねたりしてきているため、児童・保護者とも肯定的回答率が、指標を10%以上、上回った。 【次年度への方針】 ・これからも、分かる授業の展開を心掛けていく。学級懇談会だけでなく、学年便りでも、指導している内容を伝える。また、学年便りに、時期に合わせた自主学習の内容を掲載する。
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり、安全な学校生活をしている。〔全〕 【数値指標】 「児童（生徒）は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	① 学校の決まり「陽南のよい子」に従って、全教職員の共通理解のもと常時指導を継続し児童にきまりやマナーが身に付くようにする。 ② 「ようなん授業・生活のきまり」をもとに、児童に自分の生活を振り返らせ、規範意識を高め、判断力・実践力の育成を図る。（振り返りは学年に応じて、年3回実施） ③ 生活目標を朝の会等で唱和させて意識化を図るとともに、あいさつ、姿勢、言葉遣い、返事などの目標を焦点化し、スモールステップによる定着化を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 85.0% 教職員の肯定的回答 90.9% ・全教職員の共通理解のもと「ようなん授業・生活のきまり」等の実施により、児童が落ち着いて生活できるようになったために、児童・教職員の肯定的回答が、ともに指標を上回った。 【次年度への方針】 ・今後も、目標を具体化・焦点化して、スモールステップによる定着化を図る。
A4 教職員は分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。〔全〕 【数値指標】 「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 十分な教材研究のもと、本時の学習目標を明確にするとともに、児童の理解度に応じた作業用紙やヒントカード・ヒントコーナー・教材教具を準備し分かる授業に努める。 ② 授業の中で児童の意見を取り上げ、認め励ますなどして生かすことで、自信をもって自分の考えを表現したり伝え合ったりすることができる児童の育成を図る。 ③ 少人数担当との連携を図った学年習熟度別学習や学級内習熟度別学習・コース別学習を行ったり、単元によって学習体制を替えたりするなど、学習形態や場の設定を工夫し、効果的な学習の進め方を追究することにより、児童の理解が深められるようにし学力向上を図る。 ④ 計画的な板書を心がけ、児童が課題の確認や共有、焦点化が図れるようにするとともに学習内容の振り返りの場面で活用できるよう構造的な板書を工夫し、授業力の向上に努める。 ⑤ 会話科の学習を計画的に実施し伝え合う力の育成を図る。また「聞き方・話し方のきまり」の掲示物により意識づけを行う。	【達成状況】 児童の肯定的回答 94.5% ・児童の理解度に応じた指導や児童同士の伝えあいや学び合いの学習に取り組んできたため、児童の肯定的回答率が高く、指標を14.5%上回った。 【次年度の方針】 ・授業の振り返りにおける児童の自己評価等を活かして、今後も一人一人が意欲的に学習に取り組めるよう指導法の研究に努める。

学 校 運 営 の 状 況	A5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 人権週間、「いじめゼロ・にっこり集会」等を通して、互いを思いやることの大切さを理解し 自分たちの生活をよりよいものにしていくという意欲を高める。 ② 教育相談やアンケート調査を通して、「いじめ」や「いじめにつながる行動」の早期発見に努めるとともに、いじめが疑われる事案が把握された場合は、関係教職員が組織的に連携し家庭の協力も得ながら解決していく。 ③ 「学校をよりよくするアンケート」を6月・10月・2月に実施し、いじめを抑止するとともに把握した実態を学年便り等で保護者に周知し家庭の理解を得ながら、児童にいじめが許されない行為であるという意識を定着させる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 98.4% 保護者の肯定的回答 71.0% ・人権週間における教職員の呼びかけや、教育相談における担任とのやり取りの中で、児童への人権意識が高まってきたため、児童の肯定的回答率は高く、指標を18.4%上回った。 ・保護者の肯定的回答は、昨年度より5.4%下回り、指標に届かなかった。 【次年度の方針】 ・懇談会や各種便り等において、学校における取組を保護者に理解してもらえるように積極的に働きかけるとともに、児童指導における細かな点についても、常に情報を共有するように務める。
	A6 日課、授業、学校行事など教育課程は、適切に実施されている〔全〕 【数値指標】 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上 「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 80以上	① ゆとりと充実感のある学校生活を目指し、行事の精選をする。 ② 学校行事や児童会活動に、児童が主体的に活動する場面を多く取り入れ、児童の主体性や企画・運営力を育てる。 ③ 宇都宮市小中一貫教育の方針に従って、適切な時数を確保し、夏季休業中2日、土曜授業1日を含めて、知・徳・体の調和のとれた教育課程の編成・実施に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 97.0% 児童の肯定的回答 92.7% ・学校行事や児童会活動、縦割り班活動などで児童主体の活動を進めているため、教職員・児童とも肯定的回答率が、指標を10%以上上回った。 【次年度への方針】 ・行事の精選と適切な時数確保を継続する。
	A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。〔全〕 【数値指標】 「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒地域の肯定的回答 80%以上	① 月1回配布の学校便り（地域にも回覧）・学年便り・保健便り・図書館便り・給食便りや学校ホームページ等を通して、保護者や地域住民に学校の具体的な取り組みを積極的に発信し、学校教育への理解が深まるようにする。 ② 年度当初に「学校経営方針」を保護者に配布し、全保護者に周知するとともに、オープンスクールや学校行事の公開により開かれた学校づくりの推進に努める。 ③ PTA 運営委員会における学校経営方針の説明や学級懇談における学級経営方針の説明などにより保護者が学校教育への理解が深められるようにするとともに家庭の協力を求めていく。 ④ 出前講座・音楽集会・児童集会等の教育活動を今まで以上に保護者に積極的に公開し、学校教育の現状を見ていただくことにより、本校の教育活動への理解を深めるようにする。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 98.0% 地域の肯定的回答 100.0% ・各種の便りにより、学校教育への理解が深められたため、保護者・地域住民の肯定的回答率が高く、指標をそれぞれ18.0%、20.0%上回った。 【次年度への方針】 ・開かれた学校づくりを目指し、学校公開や積極的な情報発信を引き続き行う。

A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。〔全〕 【数値指標】 「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒地域の肯定的回答 80%以上	① PTAによる水曜日下校時の立哨・みまもり隊、地域の方々による青色パトロール隊等に協力を依頼するとともに、教職員が交代で下校パトロールを実施し、登下校時における児童の安全確保に努める。 ② 地域協議会を有効活用し、学校支援コーディネーターを中心に、学校を支援するボランティアを募り、学校・家庭・地域との連携、協力を深めるとともに児童の教育・安全の充実を図る。 ③ 「人とのふれ合い活動」を積極的に推進し、地域の教育的資源（地区市民センター・独居老人・幼稚園・保育園）を活用して、コミュニケーション能力の育成や相手を思いやる心・助け合う心の育成に努める。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 95.4% 地域の肯定的回答 100.0% ・PTAによる下校時の立哨、みまもり隊、地域の方々による青色パトロール隊などを実施し、児童の安全確保に努めた。また、「まつぼっくり」「CBA」の読み聞かせ等以前からの活動の他に、今年度より「子どもボランティア活動」をPTAと連携して行うなど、積極的に連携を進めたため保護者・地域ともに肯定的回答が高く、指標を大きく上回った。 【次年度への方針】 ・引き続き学校・家庭・地域が連携した教育活動を行っていく。
A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。〔全〕 【数値指標】 「学校は、清掃がしっかり行われ、学習しやすい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 校内掲示の決まりに合わせて、室内は整然と整えられ、清潔感あふれ落ち着いた温かい雰囲気の中で、学習に集中できるように努める。 ② 縦割り班編成後、清掃場所に適切な数の班を割り当てる。毎日の清掃時には教職員も一緒に清掃し、その場でも発達段階に応じた具体的指導を行う。また清掃マニュアルを見直したり、清掃ボランティアの協力を得ながら児童が清掃の方法を学ぶ場を設定したりすることにより、児童の清掃スキルの向上を促す。 ③ 毎月の施設・設備の安全点検により、修繕・補修を迅速に行い、安全安心な学習環境を整える。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 89.5% 教職員の肯定的回答 90.9% ・校内掲示が計画的になされ、施設・設備の修繕も迅速になされている。さらに、今年度は清掃ボランティアの協力を得ながらきめ細かな清掃指導を行ってきたので、児童・教職員ともに肯定的回答は、指標を10%程度上回っている。 【次年度への方針】 ・引き続き、清掃・掲示・緑化・施設整備をしっかりと行っていくことで、潤いのある学校環境づくりを推進していく。

教育活動の状況	生活	A10 児童は進んであいさつをしている。 〔全〕 【数値指標】 「児童（生徒）は、あいさつをしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 全職員が率先してあいさつし、学級輪番制によるあいさつ運動を通年実施し、児童会との協力を図りながら元気なあいさつの習慣化を図る。 ③ あいさつについて児童の意識化図るため「あいさつをする意味」に言及し、学級指導や授業などで継続的に指導する。また、意欲向上のために、「あいさつ表彰」を実施する。さらに家庭での指導も学年だより等で呼びかけていく。	A	【達成状況】 保護者の肯定的回答 61.7% 教職員の肯定的回答 81.8% ・教職員の肯定的回答は、昨年度より 0.3%上がり、また指標より 1.8%高い。しかし、保護者の肯定的回答は、指標を 18.3%下回った。昨年と比べても、5%下回っている。校内でのあいさつはできているが、校外ではPTA生活指導部の立哨指導記録からも、まだ挨拶が不十分である。 【次年度の方針】 ・教職員が率先してあいさつをする取組は継続する。 ・あいさつについて児童の意識化を図る。特に登下校中のあいさつができるように学校全体としての方策を工夫していく。 ・下級生の模範となる高学年の、あいさつ指導に力を入れる。 ・家庭や地域学校園、地域協議会と連携してあいさつ運動を推進する。
		A11 児童（生徒）は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 「児童（生徒）は正しい言葉づかいをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 生活目標で時と場に応じた「言葉づかい」について取り上げ、身に付くまで時間をかけて指導していく ② 「ことばの時間」の活動を通して自分の意思を表現する能力を高めるとともにコミュニケーション能力の素地を養う。 ③ 学級活動の時間を活用して、相手の気持ちを考えた言葉づかいや話し方を段階的に指導することにより正しい言葉づかいの定着化を図る。		【達成状況】 児童の肯定的回答 84.8% 教職員の肯定的回答 87.9% ・児童と教職員の肯定的回答は、指標を上回っているが、保護者の肯定的回答が 61.7%と低く、昨年度を 4.9%下回っている。 【次年度の方針】 ・昨年の取組をこのまま継続する。言葉づかいについては学年便りを通して保護者に啓発していくとともに、学級活動や道徳で行った内容を掲示するなどして、日々の振り返りに活用する。

健康・体力	A12 児童（生徒）は、進んで運動する習慣を身に付けている。（全） 【数値指標】 「児童は、休み時間や放課後などに、進んで運動している。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 「うつのみや元気っ子チャレンジ」を奨励するとともに教科体育において効果的な補助運動を取り入れるなどし、「ミニマム」達成を通した児童の体力向上を図る。 ② 休み時間における屋外遊びを奨励するとともに、児童会主催のスポーツ大会等を呼びかけ、楽しく運動する場を設ける（11月～12月）などし、運動習慣の定着化を図る。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答 86.8% 教職員の肯定的回答 87.9% ・児童、教職員の肯定的回答は指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・決められた月にチャレンジ種目を設定すると同時に週に1回体育館を開放するなど取り組む場所を設けて、取り組みやすくする。 ・意欲をかきたてるためになわとび検定表を見直し、休み時間のなわとびへの取り組み方を考える。
	A13 児童（生徒）は栄養のバランスを考えて食事をしている。〔全〕 【数値指標】 「自分は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① オープンスクール等での朝食摂取啓発ビデオ視聴また地域学校園で作成した「食育ファイル」を通して、食の大切さを啓発していく。学級活動において、栄養教諭による食育指導の時間を設けるなど、直接的な指導を行う。 ④ 学年便りや各学級の食育コーナーを活用して学校共通の記事を掲載することにより、食事のマナーや栄養素についての意識を高めるとともに、地域学校園で「お弁当の日」を同日開催したり、アンケートにより家庭の食への意識を把握したりしながら、食に対する意識向上を図る。	A	【達成状況】 児童の肯定的回答 78.0% ・給食に関する児童の肯定的回答は、指標より2%下回るが、昨年度より3.7%上回った。継続的な給食指導が子どもたちの変容につながっている。一方、各家庭の取組には、意識の差が見られ、食事全般としては保護者の肯定的回答が昨年度より3.5%下回っている。 【次年度の方針】 ・数値指標の80%には至らないものの、意識の高まりは認められる。そこで、今年度の取組を継続するとともに、来年度はさらに計画的に栄養教諭が5、6年の家庭科の授業に積極的に参加し、児童の栄養バランスへの理解を深め、食への意欲向上につなげていく。 また、栄養教諭が給食時に各学級を回り、担任とともに食の大切さや栄養などについて、継続的に児童に働きかけを行う。さらに給食指導を通して変容した児童の様子を家庭訪問や個人懇談、学級懇談会等において、保護者に伝え、家庭との連携を図る。

	B1 安全に行動できる資質や能力を育成するために、関係機関と連携して様々な取り組みを実施する。 【数値指標】 「自分は、安全や保健の学習で、安全に行動すること健康に害のあること・やっではいけないことが分かって、正しいことをやろうと思う。」 ⇒児童の肯定的回答 90% ⇒保護者の肯定的回答 80%	① 安全に行動できる資質や能力を育成するために、より具体的・実践的な取り組みをしていく。特に自転車の乗り方に関しては繰り返し指導する。 ○各学年で実施（警察と交通安全教） ・警察スクールサポーターと防犯教室（1年） ・防犯会社と非行防止教室（3年） ・自転車免許講習（4年） ・防犯教室（警備会社）（5年） ・学校薬剤師と喫煙防止教育（5年） ・携帯電話についての講座（6年） ・警察と薬物乱用防止教室（6年） ○全校で実施 ・警察スクールサポーターと不審者対応避難訓練 ・消防署と地震対応避難訓練 ・交通安全教室（県・くらし安心安全課）	【達成状況】 児童の肯定的回答 89.9% 保護者の肯定的回答 91.5% ・全体アンケートの結果は、保護者の肯定的回答が数値目標を11.5%上回ったが、児童の肯定的回答は0.1%下回った。 【次年度の方針】 ・児童の肯定的回答は数値目標を0.1%下回っているが、安全に行動できる資質や能力は概ね育ってきていると思われる。一部、ヘルメットを未着用で自転車に乗っている児童や、道路横断時などに危険な行動をとってしまう児童も見られるので、引き続き場をとらえて学年に応じて根気強く指導を続けていきたい。
学 習	A14 児童（生徒）は進んで学習に取り組んでいる。〔全〕 【数値指標】 「児童（生徒）は、進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 「だれもが楽しく、分かる授業」の展開に努め、「できる」喜びを味わわせることで、学ぶ意欲を喚起し、自ら学習に向かっていける児童の育成を図る。 ② グループ討論などの話し合いの場を意図的に設定し、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、授業や活動後に振り返りの時間を設け、自分の頑張りや友達のよさを伝え合うことで、自己肯定感を高めたり友達のよさに気付いたりできるようにする。 ③ 学校生活の様々な場面・時間で、その都度話し方・敬語の使い方などを指導し、聞き手を意識した話し方ができるよう指導していく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.5% 教職員の肯定的回答 87.9% ・ユニバーサルデザインの授業研究を進めてきたため、全体アンケートの結果は、児童の肯定的回答が11.5%、教職員の肯定的回答が7.9%、数値目標を上回った。しかし、教職員の方は昨年の結果を4.4%下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、「だれもが楽しく、分かる授業」の展開に努め、グループでの話し合いなどを通して児童が自信をもって意欲的に伝え合うことができるように配慮していきたい。聞き手を意識した場に応じた話し方や敬語の使い方などにも気を配れるよう指導していきたい。
	A15 児童（生徒）は落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指数】 「児童（生徒）は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① ポイントを明確にした「ようなん授業・生活のきまり」をもとに、落ち着いて学習する習慣を形成する。 ・授業の始まり・終わりのあいさつ ・良い姿勢 ・話の聞き方 ・片付けと次の準備 ② 話の聞き方を掲示し常時指導しながら、基本的学習習慣の定着を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 85.2% 教職員の肯定的回答 93.9% ・全体アンケートでは数値目標を達成しているものの、児童の肯定的回答は昨年度を4.9%下回った。 【次年度の方針】 ・「ようなん授業・生活のきまり」の徹底を図り、基本的学習習慣を身に付けることが、落ち着いて学習に取り組む環境づくりにつながることを意識させたい。 ・聞き方のポイントを絞り、常時指導をしていく。

	B2 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】 「自分は家庭学習の習慣が身についている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 低中高の実態に合わせて作成した「家庭学習のしおり」と「家庭学習ヒント集」を活用して常時指導し、基本的な学習に対する姿勢を育てる。また、課題の内容を工夫し、個に応じた取り組みができるよう支援する。しおりの配布時や授業参観後の懇談会において説明の機会を作り、より浸透させていく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 86.2% 保護者の肯定的回答 72.2% ・児童の肯定的回答は数値指標を達成しているが、保護者の肯定的回答は7.8%下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き「家庭学習のしおり」と「家庭学習ヒント集」などを活用し内容を工夫することで、家庭学習の習慣が身に付くようにする。また、家庭や個人による差があるため、個別の配慮や保護者の意識を高めるための工夫として、学年便りなどで指導内容や自主学習の様子を掲載し、啓発していく。
本校の特色・課題等	B3 「本とのふれ合い」を積極的に推進し、読書の楽しさを味わわせ、豊かな感性と逞しく生きる力を培う。 【数値指標】 「自分は本を読むことや図鑑などを見ることが好きで、読書をする習慣が身についている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	② 多くの本との出会いと読書の楽しさを味わわせるために、週2回の読書の時間を日課表に位置づけ、月2回ボランティアによる読み聞かせを実施していく。 ③ 多読表彰や図書コーナーの充実（図書館便り、児童の読書の記録、おすすめの本の紹介などの掲示）により本に親しむ環境作りに努め、児童の読書意欲の向上を図る。 ③ 全教科の調べ学習に対応できるよう、必要とされる時期に必要な本の整備に努める。 ④ 読書の習慣化を促すため、家読を家庭に呼びかける。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 80.0% 教職員の肯定的回答 84.8% 保護者の肯定的回答 71.1% ・ボランティアによる読み聞かせの実施や必読図書カードの活用、週2回の読書タイムを設けることで、児童や教職員の肯定的回答は数値指標を上回ったものの、保護者の肯定的回答は、8.9%下回った。また、読書の習慣化に学年差が見られる。 【次年度の方針】 ・読書への意欲が高まるよう、次年度も今年度の取組を継続していく。 ・図書だよりや学年だより等で、家読を推奨したり読書の習慣化について協力を求めたりし、保護者への啓発をしていく。 ・図書館だよりでおすすめの本を紹介したり、読書週間や集会の実施をしたりし、児童の読書への関心を高め、読書意欲の向上につなげていく。 ・南図書館との連携により、児童の学習内容にそった図書を整備し、充実した調べ学習ができるよう授業支援に努める。 ・教職員の読書指導への共通理解を十分に行い、どの学年においても読書の習慣化が図れるように努める。

B4「人とのふれ合い」の推進により、相手を思いやる心や助け合う心を養う。 【数値指標】 「縦割り班活動では、他の学年の人とも協力しながら楽しく活動することができた。」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 縦割り班を主体とした活動（年2回の子ども集会・ふれあい給食・清掃班活動）を設定し、異学年交流の中でコミュニケーション能力を育成したり、思いやりの心や助け合う心を養ったりする。 ② 登校時のふれあい、地域の方とのふれあい、高齢者との交流、学校支援ボランティア感謝の会等様々な場面における交流活動の中で、児童一人一人のコミュニケーション能力の育成を図っていく。	【達成状況】 児童の肯定的回答 90.7% 教職員の肯定的回答 93.9% 保護者の肯定的回答 91.9% ・ふれあい給食や縦割り班遊び、集会活動などで、人間関係が深まってきたため、児童の肯定的回答率が高く、指標を10.7%上回った。 ・地域の方と交流する機会を多く設けたことで、一人一人が感謝の気持ちを表すことができたため、地域や保護者の肯定的回答が90%以上と高かった。 【年度の方針】 ・次年度も引き続き今年度の取組を継続し、縦割り班活動を充実し、思いやりのある心や助け合う心を更に養っていききたい。
---	--	---

〔総合的な評価〕

○総合的にみると、学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色・課題等の多くの事項について概ね数値目標を達成することができた。

○本年度の学校教育の重点目標である「教職員の協働体制による学校教育推進」「学校内外における教育的資源の有効活用」「基本的生活習慣を身に付け、時と場に応じて適切に判断し、自主的に行動できる児童の育成」「自ら進んで心と体の健康づくりに取り組む児童の育成」「基本的な学習習慣の定着と個に応じた指導の充実」などへの具体的な取組については、肯定的回答の割合が高い。

○「学校全体に活気があり明るくいいきとした雰囲気である」「教職員は協力し、児童のよいところを認め教えるべきことをしっかりと熱心に指導している」「学校は家庭・地域・企業等が連携協力して教育活動や学校運営の充実を図っている」「児童は授業中に進んで話し合い分かりやすく発表するなど積極的に学習している」などの全体アンケートの教職員、保護者、地域住民の肯定的回答率が、90%を上回り、学校の取組が保護者や地域住民に理解されていることが分かる。

○児童の肯定的回答は、「児童は好き嫌いなく給食を食べている」「児童は学校や家で本を読んだり図鑑などを見たりし、読書に親しんでいる」を除く項目において、85%を上回り、学校生活への満足感が高いことが分かる。

●肯定的回答率が数値指標に達しなかった項目もあり、次年度への課題を残している。

今年度、肯定的回答率が80%を下回ったアンケート項目は、以下の通りである。

【児童】

・児童は好き嫌いなく給食を食べている。(78.0%)

【保護者】

・学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。(71.0%)

・児童は、時と場に応じたあいさつをしている。(61.7%)

・児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている。(65.0%)

・児童は、好き嫌いなく給食を食べている(66.7%)

・児童は、宿題や自主学習など、家庭学習の習慣が身に付いている。(72.2%)

・児童は、学校や家で本を読んだり図鑑などを見たりし、読書に親しんでいる。(71.1%)

【地域】 なし

【教職員】

・児童は、好き嫌いなく給食を食べている(75.8%)

6 学校関係者評価

○学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色・課題等の全ての項目について、十分に数値目標を達成することができた。

○アンケートへの自由記述や学校評価についての話し合いにおいては、以下のような意見が述べられている。

・登下校時のあいさつについては、登校班長や上級生が大きな声ではっきりとあいさつができると、それを見習って下級生

もよいあいさつができています。

・学習支援や学校環境整備などの学校支援ボランティア活動が活発に行われたため、学校環境がよりよくなるとともに、児童の学ぶ環境がより快適になってきている。

・保護者によっては、アンケートに答える場合、自分の子どもに目を向けて答えている場合と児童全般に目を向けて答えている場合があるため、アンケート結果から全体的な傾向を把握するとともに、個別に配慮して学校教育の充実を図ることも視野に入れていく必要がある。

○今後も本校の学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色などについて積極的に公表し、保護者や地域の理解が深まるように努める。また、地域や保護者からの声を学校運営に反映し、改善を図り、家庭・地域と連携した教育活動の充実に努める。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

○学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色・課題等の多くの事項については、概ね数値目標を達成することができた。次年度も、本校の学校運営の状況、教育活動の状況、健康・体力、学習、本校の特色などについて積極的に公表しながら、開かれた学校づくりに努め、今年度の取組を継続・発展させながら、学校と保護者、地域が協力・連携を図り、地域ぐるみで学習環境を整えていく。また、地域や保護者からの建設的な声を学校運営に反映し、改善を図りながら教育活動の充実に努める。

◇次年度に向けての方向性

○教育相談を充実させたり学校のいじめ防止への取組を家庭や地域に公表したりし、家庭や地域と協力し合っていじめの抑止に努める。

○家庭や地域・学校園、地域協議会と連携してあいさつ運動を継続し、活気にあふれた学校の雰囲気づくりに努める。

○道徳や教科の指導、学校生活の場面を通した指導等により、相手の気持ちを考えて話すことができる児童の育成を図るとともに、家庭や地域との連携を図り、大人が児童に範を示せる環境づくりに努め、場に応じた言葉づかいができる児童の育成に努める。

○児童の好ましい食習慣や食事のマナーが学校給食や家庭において定着するよう、家庭との連携を図りながら食育教育をより一層推進する。

○家庭と連携しながら、「家庭学習のしおり」を活用するなどして家庭学習の習慣化を図る手立てを工夫する。

○読書の楽しさや喜びが味わえる読書環境を整えるとともに、折に触れ、「家読」について保護者に啓発を積極的に行うことで、家庭における読書習慣の定着化を図る。

○「街の先生」「地域協議会」「コミュニティセンター」などの教育資源を積極的に活用するなどし、学校や家庭、地域との連携に努めながら、全職員の創意工夫を生かした特色ある教育活動を推進する。

○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの研究に取り組み、「だれもが『楽しく・わかる・できる』授業」を追究することで、生き生きと学び合い自分の考えを深める児童を育成する。